

これからのNACISIS-CATの 制度設計



国立情報学研究所 学術コンテンツ課
高橋菜奈子

2015/06/25

目次

- WSの背景
- 現在の制度設計
- NACSIS-CATの課題
- NIIの中の検討状況
- 共創共考

本WSの背景



WSのテーマ

- NACISIS-CATの運用モデル再考
 - 「共同分担入力方式」を見直し、**運用モデルを再考**する。
 - **エビデンス**に基づき、新しい運用モデルを精緻化し、**制度設計**を行う。
- **【制度設計】**とは
 - 新しい制度を作る、または現行制度を改善する場合に、その目的、対象、事業内容、必要な組織、運営の仕方などをまとめた計画。[コトバンクデジタル大辞泉 (<https://kotobank.jp/>)]

NACSIS-CAT 2020

- 第8回連携・協力推進会議(平成26年7月8日)
- 平成32年(2020年)には**現在のような枠組み**での目録システムは終了していることも想定して、NIIと大学が協力しての検討を付託

- 問題意識
 - 学術情報の変化
 - 安定運用であるがゆえの施策順位の低下
 - レガシーな事業モデル・運用モデルのコスト
 - 大学図書館の参加意識の低下
 - 大学とNIIの相互理解の不足

目録システムが不要になったわけではないが、今のままの共同分担入力方式に意味があるのか？
大学図書館とNIIで、事業モデルの見直し、システムの見直しを開始。

現在の制度設計

504	1) セ, ヒロシ
	情報の世紀を生きて 猪瀬 博著 東京 東京大学出版会 1987 Vii, 250p 20cm

NACISIS-CAT概念図



みんなで作るNACISIS-CAT

目録システム(NACISIS-CAT: CATaloging system)は、研究者の研究活動を支援するため、全国の大学図書館等にどのような学術文献(図書・雑誌)が所蔵されているかが即座に分かる**総合目録データベース**を構築するためのシステムです。

この目録システムでは、参加図書館による**オンライン共同分担入力**により、従来のような各図書館毎の目録作成の重複を防ぎ、目録業務の負担を軽減しています。また、データベースを効率的に形成するために、各種の標準的な目録データ(**MARC: MACHine Readable Cataloging**)を**参照・利用**することができます。

https://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/cat/pdf/about_cat.pdf

- 総合目録データベース
- オンライン共同分担入力(書誌の共有)
- MARCの参照・利用

みんなであつかうNACISIS-CAT

この総合目録データベースは、**ILLシステム(図書館間相互貸借システム)**のほか、**CiNii Books**でも活用され、研究者への目録所在情報の提供に大きな役割を果たしています。

2 図書館業務での利用

目録システムは、基本的には図書館業務のうちの目録業務に役立つものですが、結果として総合目録データベースを形成すると同時に、個々の**大学図書館等の蔵書目録データベース**を構築することができます。

https://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/cat/pdf/about_cat.pdf

- ILL(文献複写・現物貸借)の所在確認
- インターネット上で検索できるサービス
- 登録データを図書館システム・OPACで利用

NACSIS-CATの制度設計

区分	まとめ
目的	全国の大学図書館等の学術文献(図書・雑誌)の所蔵がわかる総合目録データベースを構築する
対象	研究者の研究活動、図書館の業務
事業内容	NACSIS-CAT(総合目録データベース)の運営 NACSIS-ILL、CiNii Books、各大学図書館システムでの活用
必要な組織	データベース運営者(NII)、参加館(図書館)
運営の仕方	【NIIによる運営】 システム(データベース・簡易な入出カツール)の提供、 MARCデータの登録、データ品質のメンテナンス、参加館管理・問い合わせ対応、操作者への研修、ILL・CiNiiBooks等でのデータ活用 【大学図書館の参加】 参加申請制、料金は当面無料 書誌データの入力、修正、所蔵登録、図書館システムでのデータ活用

先行する書誌ユーティリティ

	OCLC	Utlas	RLIN	WLN
書誌共有の有無	書誌共有型	並列型	並列型	書誌共有型
MARCの利用	書誌7種、 典拠1種 総合DBと分離	書誌6種、 典拠1種 総合DB混合	書誌5種、 典拠1種 総合DB混合	書誌5種、 典拠1種
品質管理	品質管理計画あり		検査は実施しない	すべてセンターで検査
参加機関	正会員、正会員(テープ提供)、準会員、グループ利用	商用(誰でも利用可能)	RLGの正会員、準会員、RLG外の特別会員、利用会員	正会員、探索会員
参加費用	初期6,650 定額利用料 3,420 目録1件あたり 14.32~10.5	初期5,795 定額利用料 570 目録1件あたり 14.46~12.90	初期8,150 定額利用料 3,180 目録1件あたり 10.97~10.49	初期6,150 定額利用料 5,160 目録1件あたり 15.27-~9.52

現行の制度設計の背景

- 昭55(1980)年1月 文部省(当時)学術審議会答申
「今後における学術情報システムの在り方について」
 - “目録所在情報の形成・提供”
 - 「学術情報システム」の構想
 - 「中枢機関」の設立

カード目録の時代

- 小さいカードのスペースに情報を凝縮するための目録
- 自館の中で完結する情報

コンピューターリソースの乏しかった時代

- カード目録の機械化・共同分担入力への移行
- カナ読みや分かち書きによるインデックス作成
- 固有のタイトルによる検索語の選択

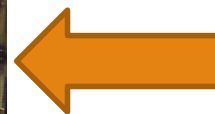
ウェブの時代

→これからの時代に考えるべきことは？

リソースの制約からの解放

- ハードウェアの価格低下
 - 2013.3～
 - 一世代前(2009.3～2013.3)

これまでに日本の図書館がつくったすべてのデータは2TB。
2ラックに収まる。



- 検索能力の向上
 - カナのみ→漢字→多言語
 - 完全一致・前方一致検索のみ→全文検索や曖昧な検索も可能に。

これからの時代に考えるべきこと

• 重複のない正確な書誌記述

- 規則に則った記述の正確さ重視
- 検索のためのアクセスポイントの充実
- 書誌共有のためには、重複書誌は絶対にあってはならない

→ 1資料1レコードの遵守＝「重複がない」は名寄せ技術が発展したら、どこまで意味があるのか？

• 典拠コントロールされた書誌

- 集中機能のために標目(文字列)を重視

→ 文字列でのコントロールから、ID(識別子)へ。

• 図書館の所蔵情報

- 所蔵登録は簡単な仕事
- 自分の図書館だけで使う情報

• → ウェブでは、その図書館しか提供できない固有の情報

NACSIS-CAT/ILLの課題



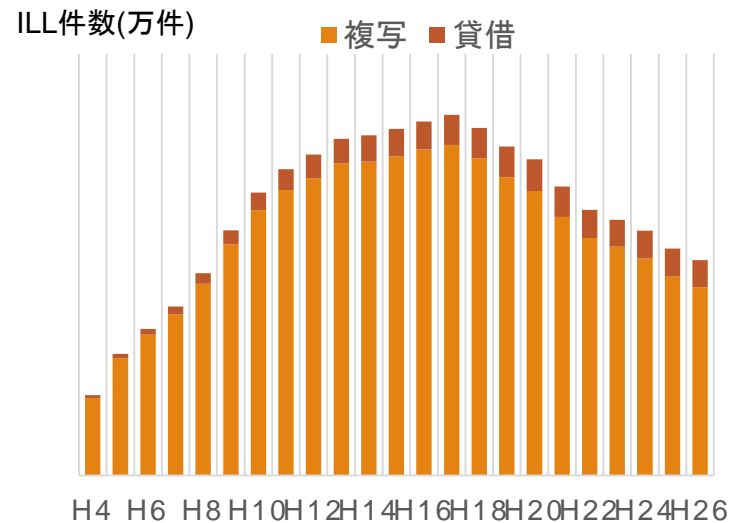
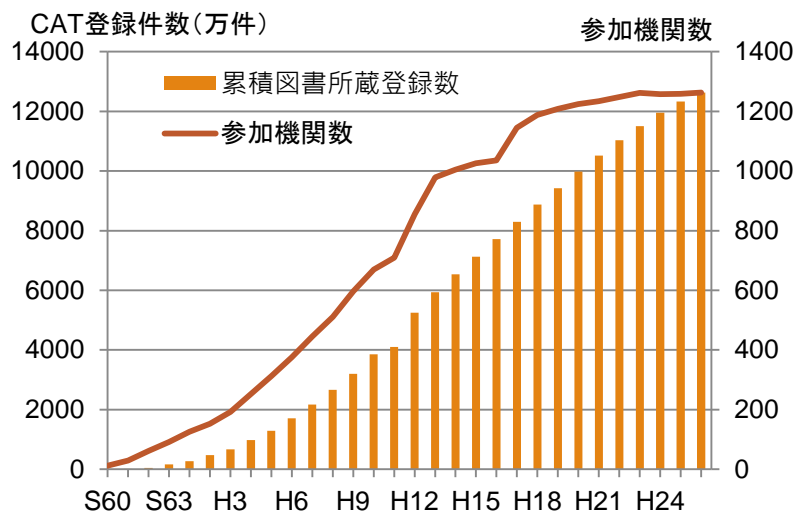
目録所在情報サービス(NACSIS-CAT/ILL)統計

● NACSIS-CAT

- 国内の大学図書館等が所蔵する図書・雑誌情報を共同構築
- オンライン共同分担入力方式による目録システム
- 参加機関: 1,263機関
- 所蔵登録データ: 図書: 1億2,632万件(2万件増/1日) 雑誌: 466万件
- 同時接続端末(ユーザ数): 5,000台

● NACSIS-ILL

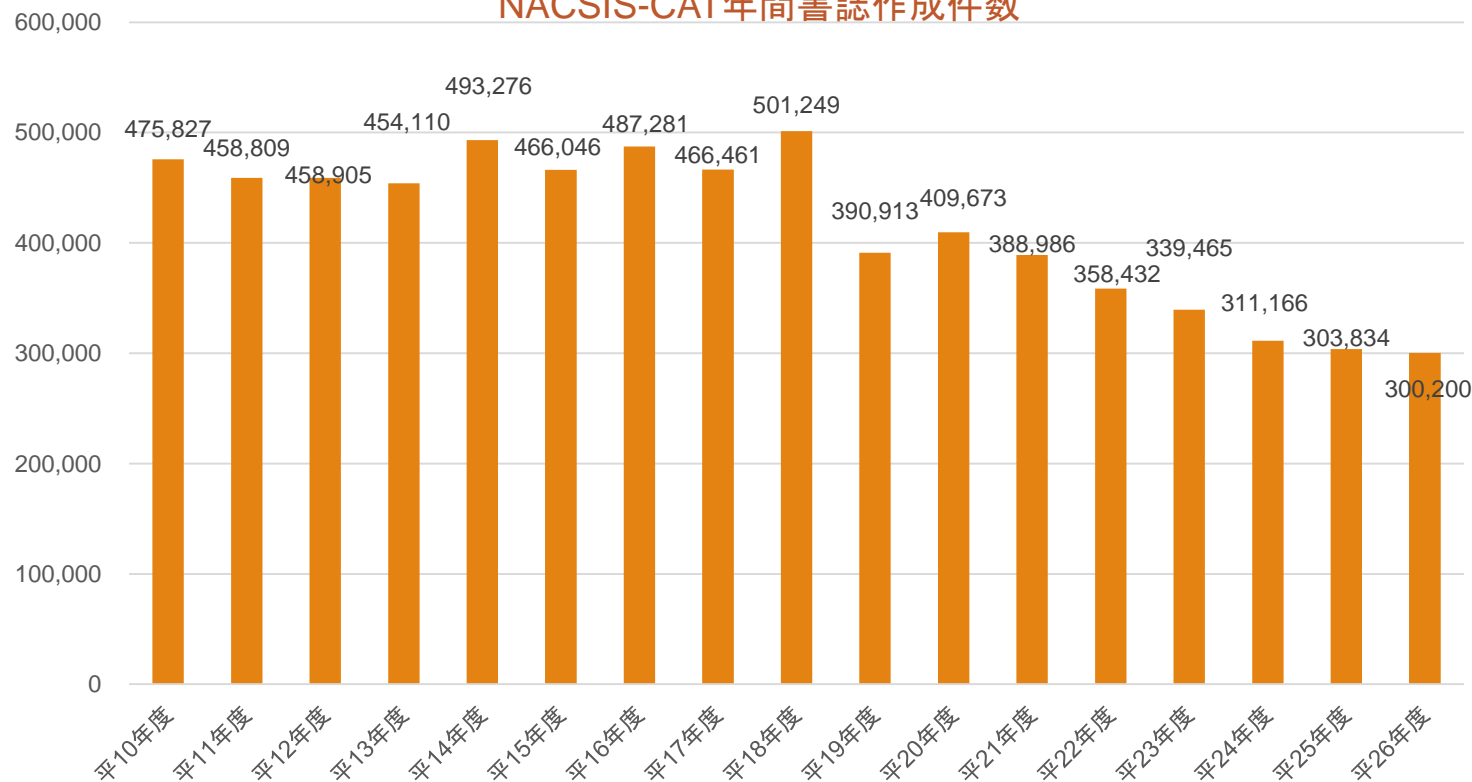
- 目録システムで構築された総合目録データベースを活用した相互利用システム
- 参加機関: 1,110機関
- 複写: 約66万件, 貸借: 9万件, 海外ILL(OCLC, KERIS)



書誌作成件数の推移

- 書誌レコード 約1,103万件、所蔵レコード : 1億2,632万件
- →約1億1530万件分の書誌作成が省力化
- しかし、年間書誌作成件数は徐々に減少

NACSIS-CAT年間書誌作成件数



これまでの大学図書館からの要望

- 「次世代目録所在情報サービスの在り方について」(学術コンテンツ運営・連携本部図書館連携作業部会次世代目録WG 2009.3)
- NACSIS-CAT/ILL参加館状況調査アンケート (2011.3)
- 「電子環境下における今後の学術情報システムに向けて」(国立大学図書館協会学術情報委員会学術情報システム検討小委員会報告書 2011.11)
- 「電子的学術情報資源を中心とする新たな基盤構築に向けた構想」(学術コンテンツ運営・連携本部 図書館連携作業部会報告書2012.4)
- これからの学術システム構築検討委員会での課題整理 (2012)

『次世代目録所在情報サービスの在り方について(最終報告)』2009.3

- https://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/archive/pdf/next_cat_last_report.pdf

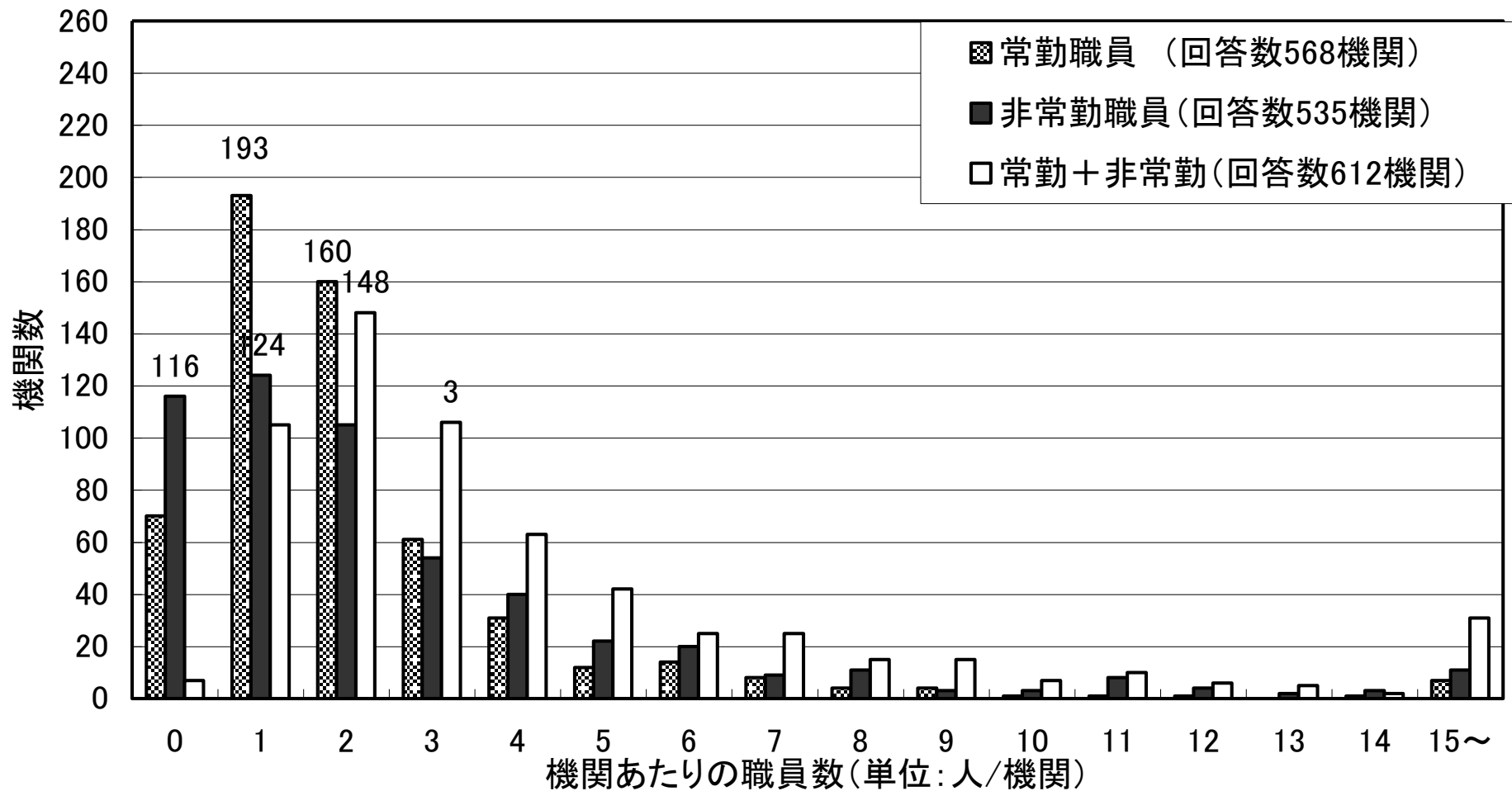
H21.3最終報告	これまでの取組み
1:[資料] 電子情報資源への対応	大学図書館と協力してERDBの構築検討 →ERDB-JP公開
2:[システム] データ構造とデータ連携	CiNii Booksの開発・公開、APIの提供 総合目録データベースのデータ公開 (NII内での)システムのスリム化の検討
3:[運用] 体制の抜本的見直し	参加館状況調査アンケートの実施 →これから本格的検討開始

- 3. 【運用】体制の抜本的見直しでの提案。
 - (1)「目録センター」館の指定
 - (2) インセンティブモデルの導入
 - (3) 参加機関の機能別グループ化

NACISIS-CAT/ILL参加館状況調査アンケート

- 目的: 参加館の利用実態、事業への取り組みの考え方、直面している課題を把握し、今後のサービスの方向性を検討する
- 実施期間: 2011年3月8～22日
 - 東日本大震災の影響で回答期限を6月まで延長
 - アンケート配布機関数: 1,024機関 (1,454館=FA単位)
- 回答館数: 616館 (回答率60.2%)
- 結果公表:
<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/project/enq2011/index.html>

機関あたりの目録担当者の人数



年間整理冊数

	機関数	和書整理冊数	洋書整理冊数	和洋整理計	新規書誌作成数
A (大学8学部～)	39	1,409,612	608,476	2,018,088	149,531
B (大学5～7学部)	61	936,874	243,498	1,180,372	51,841
C (大学2～4学部)	200	1,438,316	514,479	1,952,795	79,095
D (大学単科大学)	171	957,628	228,922	1,186,550	47,512
短期大学	60	151,314	4,556	155,870	3,557
高等専門学校	35	57,200	5,477	62,677	3,121
共同利用機関	9	62,392	34,736	97,128	23,029
その他	42	163,337	24,622	187,959	32,514
計	617	5,176,673	1,664,766	6,841,439	390,200



書誌作成館の偏り

書誌作成・修正のポリシー	機関数	構成比	実際の書誌作成数
必要に応じて、書誌の新規作成する	427	54.8%	295,409
書誌修正は行うが、新規作成は行っていない	99	12.7%	5480
所蔵登録のみを行っている	253	32.5%	1,098
計	779	100.0%	

- 1/3の館が所蔵登録のみ
- 書誌作成を行わない理由: 人手不足(82) スキル不足(79) 書誌あり(33) その他(30)
- 書誌作成の多い館には負担感あり

レコード調整の負担感

- 書誌品質を確保するため「作成館責任主義」
- レコード調整の負担感は書誌作成の多い館で強い。

	レコード調整 受付	レコード調整 依頼
総件数	38,890件	13,129件
回答館	698	693

受付件数	0	~10	~20	~50	~100	~200	~300	~500	501~	全体
参加館数	169	184	85	101	75	42	14	16	12	698
構成比	24.2%	26.4%	12.2%	14.5%	10.7%	6.0%	2.0%	2.3%	1.7%	100.0%

依頼件数	0	~10	~20	~50	~100	~200	~300	~500	501~	全体
参加館数	407	160	33	39	21	16	8	4	5	693
構成比	58.7%	23.1%	4.8%	5.6%	3.0%	2.3%	1.2%	0.6%	0.7%	100.0%

NIIによる品質管理

- 品質管理部門は業務委託
- NIIの品質管理室業務(平成22年度実績)

	重複報告処理	修正報告処理	Q&A DB回答	雑誌新規修正 書誌チェック	変遷 シート チェック	データ修正	二項ファイル作成	双子統合処理	SV処理
図書	4,359	1,250	1,011						4,057
雑誌			135	10,005	881	1,170	887	46	954

- レコード調整連絡(年6回, 平成22年度実績)

※平成23年度からは年4回に。

図書所蔵付け替え	図書書誌修正	雑誌編成報告	雑誌書誌修正	雑誌所蔵付け替え
41,535	715	1,841	177	544

書誌品質維持の負担感

- 所蔵登録のみの館で重複率が高くなる傾向
- 書誌作成の多い館から規則の徹底への要望

ポリシー	機関数	実際の書誌作成数	直近3年間重複書誌作成数	重複率
新規作成する	427	295,409	374	0.13%
書誌修正のみ	99	5480	17	0.31%
所蔵登録のみ	253	1,098	14	1.28%

重複書誌作成件数

	新規書誌 作成数	重複書誌作成数				削除予定 レコード 作成数	削除した 書誌合計
		3年以上 前作成書 誌	直近3年 間作成書 誌	直近3年 重複率	重複書誌 作成数合 計		
2004年	496,650	2,118	586	0.12	2,704	11,837	14,541
2005年	475,116	2,554	703	0.15	3,257	9,362	12,619
2006年	498,455	2,686	725	0.14	3,411	9,068	12,479
2007年	398,951	2,653	777	0.20	3,430	9,401	12,831
2008年	408,546	3,072	521	0.13	3,593	6,344	9,937
2009年	391,561	3,629	598	0.15	4,227	7,089	11,316
2010年	363,271	2,803	453	0.12	3,256	6,184	9,440

- 今まで書誌品質で重視されてきたポイント=重複率
- 「重複がないこと」だけが書誌品質なのか？

著者名典拠のリンク

	可能な限り リンクしている	あれば リンクしている	リンク作業は しない	計
回答数	200	366	197	763
構成比	26.2%	48.0%	25.8%	100.0%

- 著者名典拠コントロールの意義
 - 著者の同一性の保証という品質
 - 同一著者の著書の一覧を可能にする集中機能
 - 運用上の問題点
 - 当初, リンク作業中にセッションが終了してしまうなどのトラブル
- 1987年に参加館からの要望で, リンク作業のオプション化



研修への期待

- 裾野拡大・機会拡大への要望

講習会(図書) 受講者数分布

	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人	11人～	計
回答館数	149	278	168	97	53	24	16	11	8	8	1	6	819
構成比	18.2%	33.9%	20.5%	11.8%	6.5%	2.9%	2.0%	1.3%	1.0%	1.0%	0.1%	0.7%	100.0%

講習会(雑誌) 受講者数分布

	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人	11人～	計
回答館数	316	230	131	46	18	5	1	2	0	1	1	0	751
構成比	38.6%	28.1%	16.0%	5.6%	2.2%	0.7%	0.1%	0.3%	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	100.0%

- レベル別・スキルアップ研修への要望
- セルフラーニング教材の利用

	利用したことがある	利用したことがないが、 利用してみたい	利用したことがない	合計
回答館数	491	129	226	846
構成比	58.0%	15.2%	26.7%	100.0%

参加館アンケートの結果から明らかになった点

- 大規模・書誌作成の多い館
 - レコード調整の煩雑さ・負担感
 - 規則の徹底・整備への要望
 - レベル別研修・スキルアップへの要望
- 小規模・書誌作成の少ない館
 - 研修拡充・機会拡大への要望
 - 図書館の困難な実情⇨省力化への潜在的要望

NIIの検討状況



国立情報学研究所
National Institute of Informatics

NII内でのこれまでの課題検討

平成18(2006)年の検討に あげられた課題

- CATの目的
- 運営方法

- 図書館システムとCAT
- 電子資料
- 出版データ

- FRBR

平成22(2010)年のCAT デーにあげられた課題

- CATの意義
- 書誌の品質
- 人材育成
- コストパフォーマンス
- 図書館システムとCAT
- 電子リソース
- 新刊登録の改善
- 遡及入力の支援
- 外部データ提供

平成24(2012)年～これから委員会に舞台を移して検討

NIIでの議論の背景

- NACSIS-CAT/ILLの課題認識
 - NACSIS-CAT/ILLシステムはこのままで存続できるか？という命題(特にコスト面での圧力)
 - NACSIS-CAT/ILLサービス停止の影響が大きいことを再認識
 - 平成25年3月のリプレイスではハードのコストダウンをすることが主眼
- 3つの可能性
 - ① 枠組みをシンプルにスモールにしてコストを下げる
 - ② 維持するための費用を獲得する
 - ③ OCLC等に移行する
- →3つの可能性については、NIIだけで決定できる問題ではない。①に主眼をおいた検討開始(平成23年度～)

NII内でのこれまでの取組み

- 現行CATの分析・コードの調査(H23～24)
- 書誌作成の実体の把握(H25)
 - 「**目録の全自動化は可能か？**」という命題について基礎事実の確認・調査
 - ①なぜMARCそのままではいけないか？
 - ②なぜMARCがあるのにオリジナルで作成するのか
 - ③本当にオリジナルしかないものは何か？
- 簡易システムでのVOLばらし実験(H25～26)
 - VOL積み書誌をどこまでフラットにできるか？

NII内CAT将来検討チームでの検討

- 検討課題:「目録の全自動化は可能か?」という命題について基礎事実の確認・調査
 - メンバー:高橋, 藤井, 大向, 吉田, 渡辺,
1月~白石, 今満
 - ミーティング:週1回(2013/11/18~2014/2/25 全9回)
 - 検討すべき項目
 - 外部の書誌をそのまま利用することを想定し、
 - ①将来像の設計
 - ②具体的な方法
 - ③課題・影響などの調査
- をするため、まず、**基礎事実を把握する**

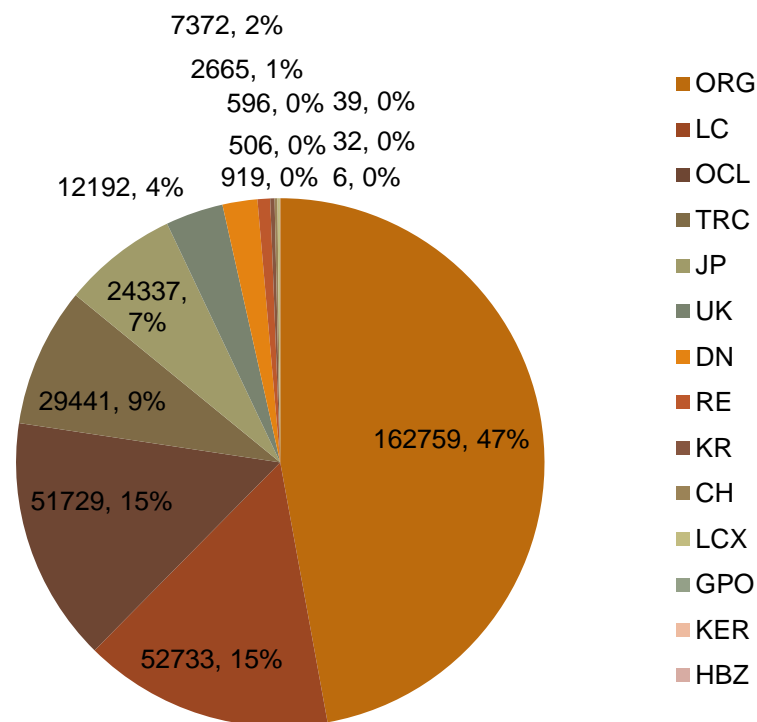
書誌作成の実体の把握

対象とするデータ

- 書誌IDが<BB>で始まる書誌
BB00000034 ~ BB1402526X
- 作成日2009.11.13~2013.11.25
- 件数 1,381,553件

概況

- ①MARCから流用(52.9%)
- ②オリジナルの内MARC
にも書誌あり(7.5%)
- ③オリジナルしかないもの(39.6%)



書誌作成の実体の把握

- ①MARCから流用(約53%)
 - なぜMARCそのままではいけないか？
 - NACSIS-CAT独自ルール・書誌単位の違い
 - 典拠とのリンクをどう考えるか？
- ②オリジナルの内MARCにも書誌あり(約7.5%)
 - なぜMARCがあるのに作成するのか
 - MARCが早く存在すればいいのか？
- ③本当にオリジナルしかないもの(約40%)
 - 図書館員が作成しなければいけない書誌はどのようなものか？

①外部書誌をそのまま利用できない理由

目録情報の基準「1.3.2 参照ファイル」

参照ファイル(及びMARC)を, 互いに連関した総合目録データベースの内部ではなく, 参照という形で外部に位置づけた点は, 総合目録データベースの環境の大きな特徴である。なお, 各参照ファイル中のレコードは, **様々な目録規則に従って作成されているため**, 総合目録データベースへのデータ取り込みの際は, **本基準と照合する必要がある**。

参照MARC流用時の注意点

- (1)VOL積み書誌への変更
- (2)固有のタイトルとMARCのタイトルのずれ
- (3)リンクの形成
- (4)重複書誌のILLへの影響

① 目録情報の基準の問題点

- **MARCとのずれを生む原因**
- 「固有のタイトル」
 - 一般には、副タイトル、あるいは、セットものの下位のタイトルが書誌が対象になる。
 - 書誌記述の面で一般的なデータ(出版社・書店も含む)と異なるため、利用者にとって違和感が大きい。
- VOL積み
 - 1つの書誌に物理的な本を複数記述する。したがって、ISBNを複数持つ書誌になる。
 - 他のデータ(MARCなど)との書誌単位が異なるため、1対1の連携ができない。
- 重複書誌不可
 - 『目録情報の基準』ではこれらの取り扱いを厳密に定め、絶対に重複が起こらないようにコントロールを求めている。
 - そのため、MARCのデータをそのまま利用できない。
 - 解釈の違いを許さないために、レコード調整の負荷が高い。
- **MARCをそのまま利用する場合に想定される問題点**
- 典拠やシリーズへのリンクをだれがどのように形成するか？
- 現時点では、著者名典拠へのリンクはオプション化されているが、著者ID付与率は上げたい。

①(1)VOL積み

- VOL積みの書誌の解消
 - 利用側(CiNii Books)で書誌のフラット化のプロトタイプ作成済み。同じロジックが利用可能。
 - 作成側でも、VOL積みを解消し、物理的な単位ごとにレコードを作成する。
- MARCがフラットだった場合→そのまま登録
- MARCがVOL積みだった場合→書誌を複数にして登録する
ローダが必要

①(2)固有のタイトル

- MARCの固有のタイトルがずれている場合→マッピングを再度行い, ロードを作成する
- 「目録情報の基準」のTRでない”タイトル”を形成するロードが必要

①(3)リンクがなくてもよいかの検討

- 最近の書誌(BB)でORGを対象として調査
- 親子関係(シリーズ典拠)のリンク
 - PTBLが存在する書誌35.7%
- 著者名典拠とのリンク
 - ALフィールドに対するリンク率 60%
 - 日本語 68.1% 日本語以外53.2%
 - 著者名典拠のソース
- 統一書名典拠とのリンク
 - UTLが存在する書誌1.4%
- リンクはあとから作る→図書館システム側に自動更新する機能は必要

①(4)ILLへの影響

- 重複書誌
= 各種MARCから同じ実体に対する書誌が登録された場合に、ILL申込に支障をきたす。
- 現状：重複書誌をなくすために、登録時に人手で同定
- 将来：目録と利用（ILLやCiNiiBooks）を切り離す。
- 書誌名寄せの技術（CiNii Articlesで実現している技術の応用）
- 書誌名寄せ済みのものに対してILLの検索をかけるようにする。
→どこまで同定可能か？

②MARCがあるのにオリジナル作成するのはなぜか？

- MARCでは記述に問題がある？
- 総合目録DBからコピーしたほうが効率的？
- MARCの提供が遅い？
 - TRC MARCの事前書誌登録実験
 - <http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/infocat/cip/mshinkan.html>
 - NDLの公共的書誌基盤のマッピング
 - http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/jitsumu/h23/h23-2_seika.pdf

→基本的には①の問題に収斂する

- 現実問題としては、TRCMARCをデイリーで登録すれば、少し早くなる。

②事前登録書誌

- 平成21年1～3月の事前登録書誌試行
 - TRCMARCを流用して、人手で現物から登録。
 - コスト・方式・品質の面で課題。

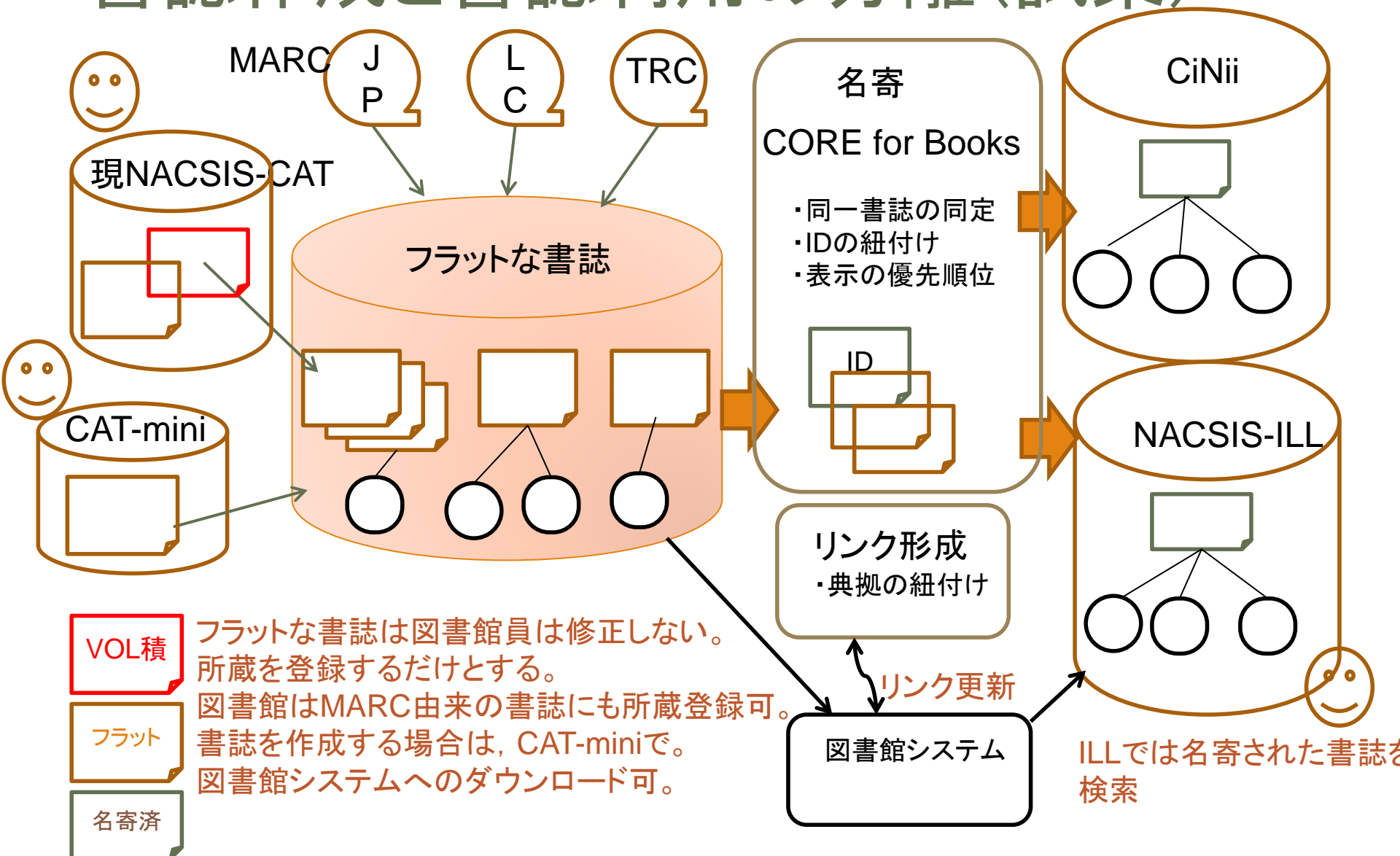
事前登録書誌作成数	4,353
事前登録時に既登録数	1,393
レコード調整発生数	125

- 参加館アンケート結果(中間まとめ)

試行を知っていたか？		有効だと思うか？		登録されるとわかっていれば待つか？		
知っていた	知らなかった	有効と思う	有効と思わない	1週間程度ならば、登録されるまで待つ	登録されていなかったら先に新規作成する	その他
355	348	600	75	564	80	49
50.5%	49.5%	88.9%	11.1%	81.4%	11.5%	7.1

→次のステップとしては機械的な処理を検討

書誌作成と書誌利用の分離(試案)



VOLばらし実験

図書書誌	種別	パターン	件数	備考	
処理前		図書書誌 (書誌単位)	10,666,629	現行 CATQ サーバで 使用している書誌データ	
処理後	正常	シリーズ書誌、 新図書書誌	4,496,954	データ件数 が多いため、 一部抜粋	
		新図書書誌 (書誌単位)	15,245,136		
	イレギュラー	同一 VOL を持つ 書誌	全体 (書誌 単位)	161	
			同一 ISBN & PRICE 違 い (VOL 単 位)	368	
			同一 ISBN & XISBN 超 過 (VOL 単 位)	0	
	エラー		3 階層以上の親 子書誌 (書誌単 位)	508	
自分自身を参照 する書誌 (書誌 単位)			6		

2015/02/27 時点の書誌データ (CiNii Books から取得した dump データ) を使用

図書所蔵	種別	パターン	件数	備考	
処理前		図書所蔵 (所蔵単位)	125,937,362	現行 CATQ サー バで 使用して いる所蔵デ ータ	
処理後	正常	新図書所蔵 (所蔵 単位)	全体 (所蔵単 位)	156,921,397	データ件数 が多いため、 一部抜粋
			(上記のうち、 強制紐付け した 所蔵 (所蔵単 位)) ※	1,707,896	
	イレギュ ラー	同定不可の VOL を持つ所蔵	全体 (所蔵単 位)	1,598,145 → 0 件 (強制 紐付け)	
			全体 (VOL 単位)	3,170,542 → 0 件 (強制 紐付け)	
		同一 VOL を持つ所 蔵	全体 (所蔵単 位)	109,751 → 0 件 (強制 紐付け)	
			全体 (VOL 単位)	122,762 → 0 件 (強制 紐付け)	
エラー		イレギュラーの書誌 に紐づく所蔵 (所蔵 単位)	93,421		
		参照先データが存 在しない所蔵 (所蔵 単位)	11,785		

③図書館員が作成しなければいけない書誌はどういうものか？

- BBで始まる書誌(2009.11以降)を対象に分析
 - 本当にオリジナルしかないもの(42.5%)を対象にする
- 言語別分析
 - 日本語(60%)・中国(90%)・韓国(80%)が書誌作成率が高い
 - MARCがないもの(中国・韓国・ロシア...)のオリジナル率が高い
 - 日本語は流通にのらないもののオリジナルが多い
 - →MARCの導入を進めれば①の問題に収斂できる。
- 出版年代の分析
 - 遡及:新刊は2:1
- 作成館の分析
- 所蔵館の分析
 - → オリジナル入力のスキルを維持すべき人が特定できる。

③MARC導入で解決できる問題

言語	BBすべての書誌		BB全体に対する ORGの割合	MARC導入調査
jpn	529,932	38.4%	60.1%	JP, TRCあり
eng	401,961	29.1%	32.3%	US, BLあり
chi	100,699	7.3%	91.7%	連携先未調査
ger	98,042	7.1%	33.4%	DNあり
fre	68,553	5.0%	37.6%	H26調査済
rus	29,797	2.2%	50.9%	窓口不明
spa	23,883	1.7%	28.0%	BNE (H26導入)
kor	20,464	1.5%	80.1%	KORMARC(未更新), KERIS (H26導入)
ita				ICCU (H26導入)

③平成24年度の書誌作成件数上位20

FA番号	参加組織名称	平成24年	平成23年までの累計
FA001878	東京外国語大学 附属図書館	9,878	89,464
FA002407	名古屋大学 附属図書館	9,588	125,170
FA002010	一橋大学 附属図書館	8,461	133,219
FA001007	北海道大学 附属図書館	7,936	265,807
FA007670	同志社大学 図書館 今出川図書館	7,683	286,982
FA003352	香川大学 附属図書館	6,690	8,245
FA001379	東北大学 附属図書館	6,597	114,672
FA003454	九州大学 附属図書館	6,354	220,259
FA009224	国立民族学博物館 情報管理施設	6,116	93,566
FA006758	立教大学 図書館	5,832	87,727
FA002633	京都大学 文学研究科 図書館	5,683	96,732
FA011033	日本貿易振興機構 アジア経済研究所 図書館	5,416	127,166
FA008458	天理大学 附属天理図書館	5,109	10,998
FA001787	東京大学 総合図書館	4,908	121,616
FA005019	学習院大学 図書館	4,047	51,350
FA001798	東京大学 駒場図書館	3,935	75,713
FA003170	岡山大学 附属図書館	3,810	36,582
FA002848	大阪大学 附属図書館 総合図書館	3,720	90,307
FA006678	明治大学 図書館	3,638	134,791
FA006168	桐朋学園大学 音楽学部附属図書館	3,586	87,644

③所蔵館1件のデータ

SOUCE	ORG	MARC	合計
	687,063	694,490	1,381,553
所蔵0件データ(親書誌)	40,079		
所蔵1件データ	489,392	391,826	881,218
親を除く	75.6%	56.4%	63.8%

- 次ページは所蔵1件の書誌作成
- 上位20機関(4年で1万件以上)で全体の39.1%を作成
- 遡及入力事業対象館・特殊コレクションのある専門的な図書館

③所蔵1件のORG書誌作成実績

FA番号	参加組織名称	書誌作成件数
FA009224	国立民族学博物館 情報管理施設	30,046
FA002407	名古屋大学 附属図書館	28,131
FA001878	東京外国語大学 附属図書館	27,164
FA002010	一橋大学 附属図書館	23,117
FA001007	北海道大学 附属図書館	22,779
FA002994	神戸大学 附属図書館 社会科学系図書館	21,002
FA011033	日本貿易振興機構 アジア経済研究所 図書館	20,274
FA002804	京都大学 東南アジア研究所 図書室	18,511
FA001787	東京大学 総合図書館	15,915
FA008458	天理大学 附属天理図書館	14,903
FA001379	東北大学 附属図書館	14,404
FA002633	京都大学 文学研究科 図書館	14,146
FA011758	東京大学大学院 人文社会系研究科 文学部図書室	13,309
FA007670	同志社大学 図書館 今出川図書館	13,066
FA003454	九州大学 附属図書館	12,606
FA02181X	財団法人 東洋文庫	11,822
FA001798	東京大学 駒場図書館	11,592
FA006168	桐朋学園大学 音楽学部附属図書館	11,299
FA011962	東京大学 東洋文化研究所 図書室	10,819
FA011747	東京大学 法学部	10,446

③ 本当のオリジナルをどうするか

- 次世代目録所在情報サービスの在り方について(最終報告書)
 - http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/archive/pdf/next_cat_last_report.pdf
 - 目録センター館構想
 - インセンティブモデル
 - 参加機関の機能別グループ化
- CAT/ILLWS
 - http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/ciws/report/h23/nii_1.pdf

○○○ どのような制度になろうとも、他館に依存せず、書誌を作成しなければならない図書館は必ず存在する

③ 目録システム講習会の見直し

• 目録システム講習会の現況

- (1)年々講師確保が困難になっている等、地域講習会開催の負担が増大している。
- (2)近年、受講者の属性・レベルにばらつきが生じており、講習会運営が困難である。
- (3)平成26年度の開発を以って、NACSIS-CAT/ILLセルフラーニング(SL)教材は、予定していた科目が完成する予定である。
- (4)平成26年4月1日より、既存のSL教材を一般公開した。

• 見直しの方向性

- 初任者、および、主に所蔵レコード担当者へは、SL教材の学習を推奨する。
- 集合研修の受講対象は、新規書誌・オリジナル書誌作成機関の担当者を中心とする。→H27～目録システム書誌作成研修(試行)
- NIIと大学とでWGを設置し検討。

共考、共創



共に考え、共に創る

「共考共創」は、NII喜連川所長の造語だが、図書館の文脈で解釈すると...

- NIIが単独で、あるいは、個々の大学図書館1館が単独で解決できる問題はもはやない。
- しかし、NIIを船長とする護送船団方式は終焉
- →大学図書館とNIIが協働して解を探す
- NACSIS-CAT「共考共創」の3つの道筋
- ①「これからの学術情報システム構築検討委員会」の作業部会で必要な情報を収集・調査・システム要件の検討
- ②本システム総合WSで、運用モデルの課題に取り組む
- ③実務研修生も募集中！

大学図書館とNIIとの連携・協力

• これからの学術情報システム構築検討委員会

年度	回次	検討内容
H24年度	第1回～第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・ミッションの共有と個別課題の洗い出し、 ・4つのカテゴリー(全体、電子リソース、目録システム、デジタル)に課題整理
H25年度	第5回～第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・総合目録データベースのデータ公開方針の検討 ・NACSIS-CATの将来像検討
H26年度	第8回～第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・総合目録データベースのデータ公開方法の検討 ・電子リソースデータ共有の検討 ・今後の目録所在情報サービスについての検討
H27年度	第11回～	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの学術情報システムの在り方についての検討 ・NACSIS-CAT検討作業部会の設置

ふたたび、本WSの課題

- NACISIS-CATの運用モデル再考
 - 「共同分担入力方式」を見直し、**運用モデルを再考**する。
 - **エビデンス**に基づき、新しい運用モデルを精緻化し、**制度設計**を行う。
- (1)外部データの活用を含む所蔵登録の簡素化
- (2)目録センター館制度を含む書誌作成の改善